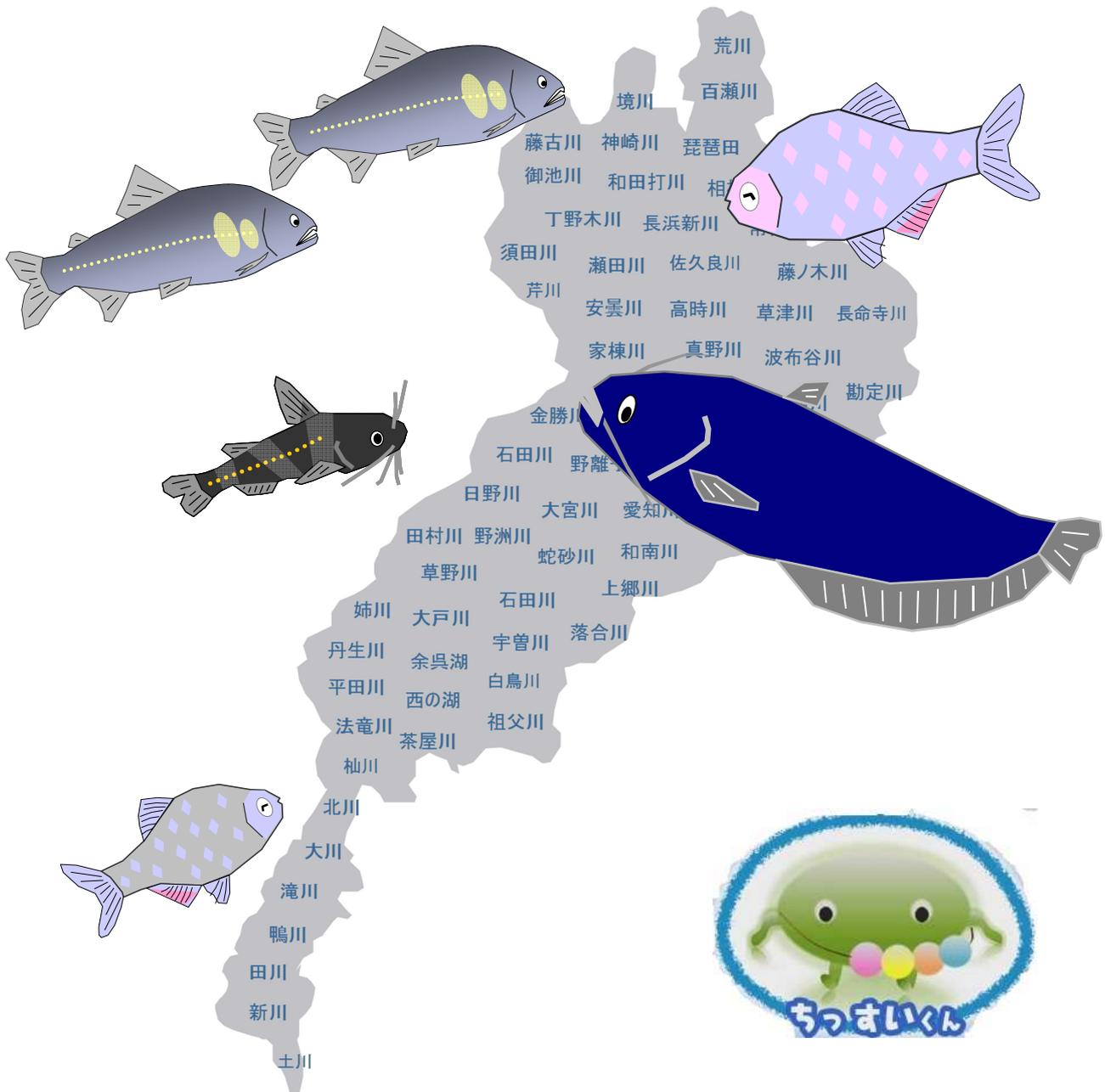


第8回

淡海の川づくりフォーラム

プログラム & 選考用資料



日時：平成27年(2015年)1月10日(土) 9:30~16:30 (受付 9:10 より)

場所：コラボしが 21 3階各会議室

主催：淡海の川づくりフォーラム実行委員会／滋賀県

後援：滋賀県河港・砂防協会、マザーレイクフォーラム運営委員会

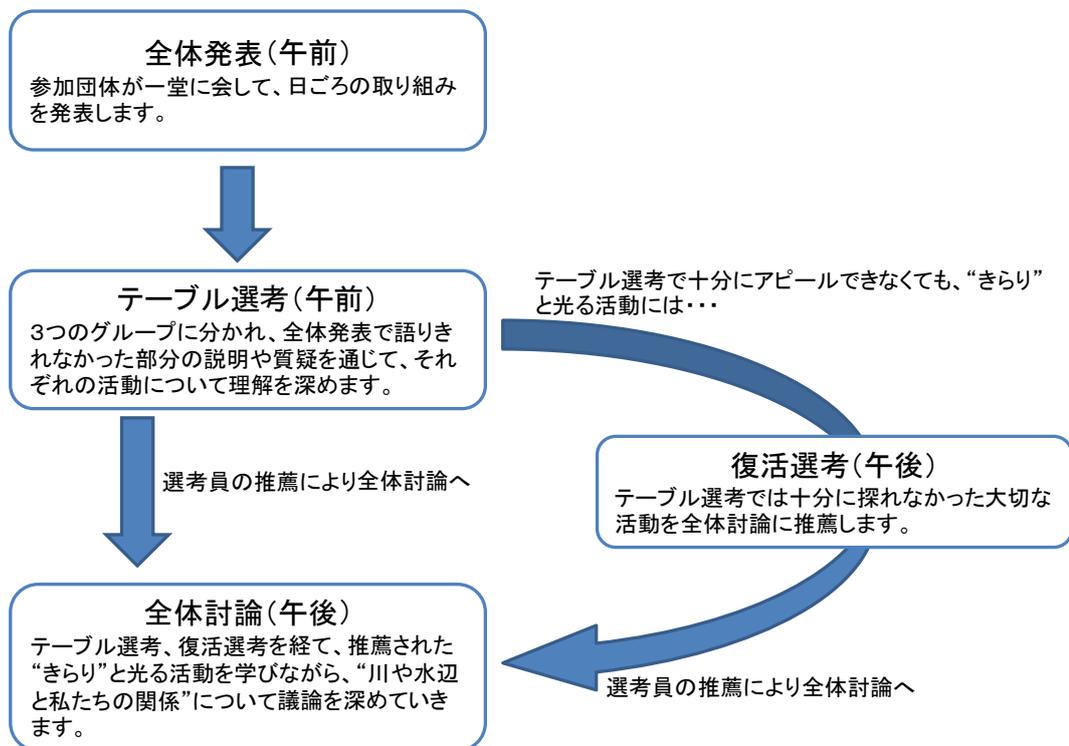
目次

1. 淡海の川づくりフォーラムの概要	3
2. 大会プログラム	4
3. コラボしが21 3階 会場レイアウト	5
4. 公開選考会の進め方・選考基準、表彰について	6
(1) 公開選考会の進め方について	6
(2) 選考基準	6
(3) 表彰	7
5. 参加団体一覧・テーブル	8
6. テーブル別各団体活動位置図	9
7. テーブル選考 選考員プロフィール（五十音順）	11
テーブルA	11
テーブルB	12
テーブルC	13
8. 全体討論 選考員	14
9. 総合コーディネーター・コメンテーター&実行委員会	15
10. 参加団体 活動概要	16
A-1 流域政策局・長浜土木事務所・畜産技術振興センター	16
A-2 白鳥川の景観を良くする会	17
A-3 琵琶湖河川レンジャー	18
A-4 NPO国際ボランティア学生協会	19
A-5 水源の里再エネ実行委員会	20
B-1 NPO法人瀬田川リバブレ隊	21
B-2 いきものみつけ寺子屋	22
B-3 米原市ピワマス倶楽部	23
B-4 杉川と親しむ会	24
B-5 山室保全会	25
C-1 草津市立渋川小学校 生き物学習実行委員会	26
C-2 長浜土木事務所木之本支所	27
C-3 滋賀でESDを進める会	28
C-4 守山市 勝部自治会	29
C-5 TANAKAMI 子ども環境クラブ	30

1. 淡海の川づくりフォーラムの概要

淡海の川づくりフォーラムでは、“川や水辺と共生する暮らし”、“川や水辺と私たちのいい関係”について、川や水辺にまつわる活動を実践されている皆さんとともに、公開選考方式のワークショップを通じて、それぞれの交流の中で議論を深め、探ります。

- 日時 : 平成 27 年 (2015 年) 1 月 10 日 (土) 9:30~16:30 (受付 9:10 より)
- 場所 : コラボしが 21 3 階各会議室
- 主催 : 淡海の川づくりフォーラム実行委員会 / 滋賀県
- 後援 : 滋賀県河港・砂防協会、マザーレイクフォーラム運営委員会



淡海の川づくりフォーラムは、マザーレイク 21 計画に基づくマザーレイクフォーラムとの連携事業です。



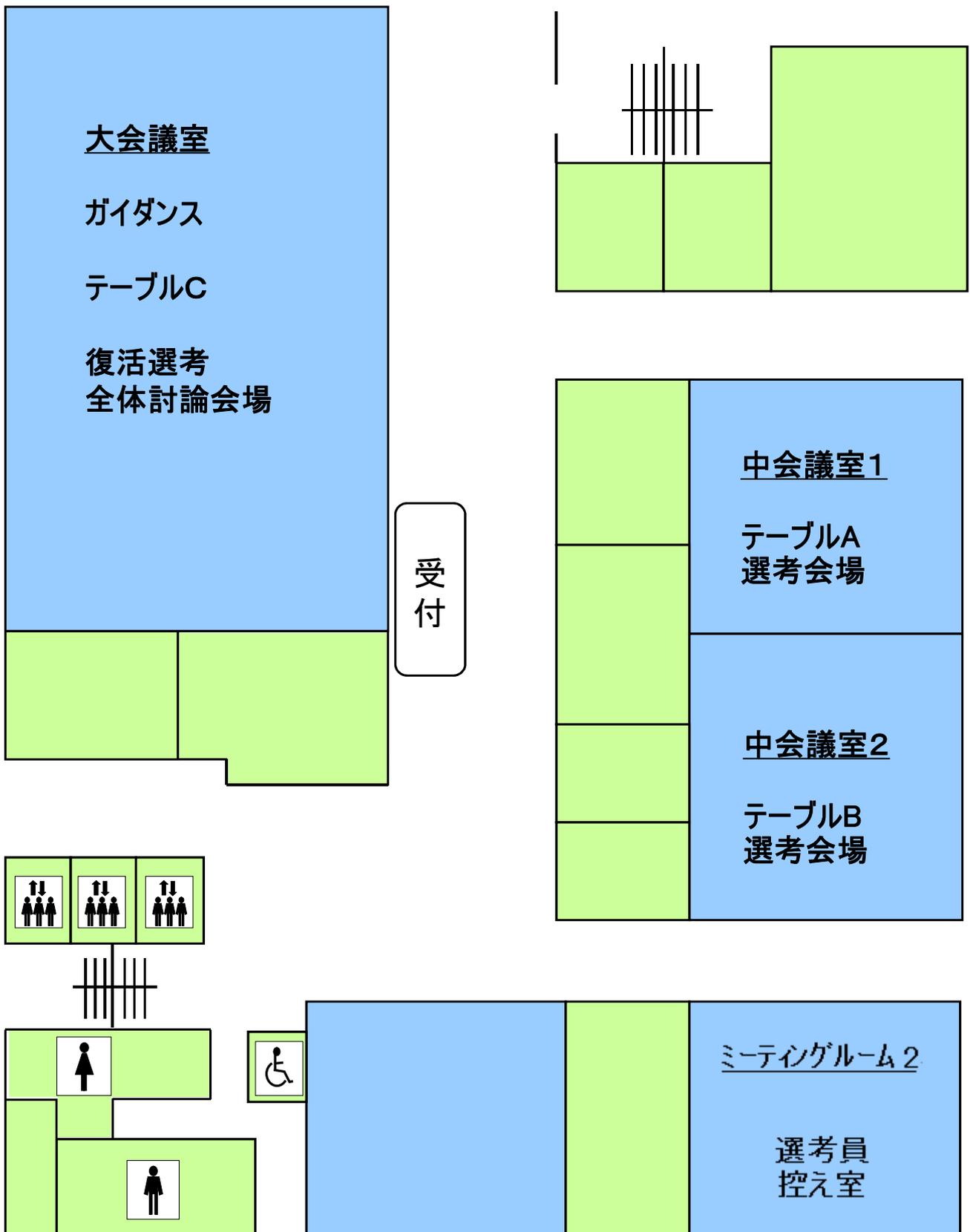
淡海の川づくりフォーラムは、滋賀県流域治水条例第 34 条に基づく県民相互の連携の支援事業です。



2. 大会プログラム

時間	内 容
9:10 9:30	○受付 ○選考委員・事務局ミーティング（進め方、選考方法等）
9:30 10:00	○開会、ガイダンス 大会議室で開会宣言を行い、その後1日の流れを説明します。
10:00 11:00	○全体発表 全体会場で活動を発表します。（発表時間各3分）
11:00 12:00	○テーブル選考 1)3つのテーブルに分かれます。 2)発表者と選考員とで議論を深め、全体討論に推薦する“いち押し”の活動を 選考します。（テーブルごとに1団体） 3)ここで推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。
12:00 12:15	○テーブル選考結果発表 大会議室で各テーブルから推薦された団体（計3団体）を発表します。
12:15 13:00	お昼休憩
13:00 13:30	○復活選考 1)時間内で自由に選考員に活動内容をアピールしてください。 2)復活選考から全体討論に進むのは4団体です。
13:30 16:15	○全体討論 1)3分間で活動内容を発表、7分間の質疑 2)選考員・コメンテーターを中心に、明日からの活動の参考になるような、今 年いちばん“キラリと光る活動”について、参加者全員でさらに議論を深めて いきます。
16:15 16:30	○各賞の発表・表彰式 1)「グランプリ」・「準グランプリ」の表彰 2)「山紫水明賞」、「マザーレイクフォーラム賞」の表彰

3. コラボしが 21 3階 会場レイアウト



4. 公開選考会の進め方・選考基準、表彰について

(1) 公開選考会の進め方について

- 選考会は、全体発表→テーブル選考→復活選考→全体選考(公開討論会)→表彰の順番で進めていきます。
- 全体発表は、参加団体が一堂に会して、日ごろの取り組みを発表します。全体発表は1団体3分とし、質疑は行いません。
- テーブル選考は3グループ、1テーブル5団体に分かれ、全体発表で語りきれなかった部分の説明や質疑を通じて、それぞれの活動について理解を深めます。発表者と選考員とで議論を深め、全体討論に推薦する“いち押し”の活動を選考します。(テーブルごとに1団体)
- テーブル選考で推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。復活選考では、選考員が大会議室に掲示された各団体のパネルを見て回りますので、時間内で自由に選考員に活動内容をアピールしてください。復活選考から全体討論に進むのは4団体です。
- 全体選考に進んだ団体は、再度、大会議室で発表をしていただきます。3分間で活動内容を発表した後、7分間の質疑の時間を設けます。
- 選考員・コメンテーターを中心に、明日からの活動の参考になるような、今年いちばん“キラリと光る活動”について、参加者全員でさらに議論を深めていきます。
- 選考員は、自らも発表者から情報を得たり、学んだりする姿勢を持ちながら参加者と一緒に“川や水辺と私たちの共生”、“川や水辺と私たちのいい関係”とは何かを探求する立場にあります。議論や選考は、後戻りや批判をすることなく、創造的に深めていくことを心がけてください。

(2) 選考基準

- 伝統的な文化と新しい文化が出会い融合する湖国滋賀にふさわしい“川や水辺と私たちの共生”、“川や水辺と私たちとのいい関係”を探ります。
- 内容の長所を評価する加点方式とし、短所は減点の対象としません。
- 公開選考会は、以下の4つのポイントにおいて総合評価します。

- 1) 発想・着眼評価： “川や水辺と私たちのいい関係”をめざすための斬新な発想や着眼、的確な視点についての評価
- 2) 関わり評価： 地域住民と水辺との豊かで良好な関わり合いについての評価
- 3) プロセス評価： 市民・住民参加や、さまざまな分野の人たちとの協働のプロセスについての評価
- 4) 計画・技術評価： “川や水辺と私たちの共生”のために工夫された計画手法や採用技術についての評価

(3) 表彰

【グランプリ・準グランプリ】

- 上記の選考基準により、審査する時点の流域・地域の情勢も踏まえ、“水辺と私たちの共生”、“水辺と私たちのいい関係”のモデルとなる活動を選考します。
- 上記の選考基準により、仲間たちに希望を与える活動を選考します。

【山紫水明賞（河港・砂防協会賞）】

- 上記の選考基準とは別の視点から、今後の淡海のいい川づくり・いい湖づくりの(事業)推進に向けて貢献する活動を選考します。
- テーブル選考で推薦されなかった団体も含めて、すべての参加団体が受賞の候補となります。

【マザーレイクフォーラム賞】

- 上記の選考基準とは別の視点から、マザーレイク 21 計画の目標達成に向けて貢献する活動を選考します。
- テーブル選考で推薦されなかった団体も含めて、すべての参加団体が受賞の候補となります。

5. 参加団体一覧・テーブル

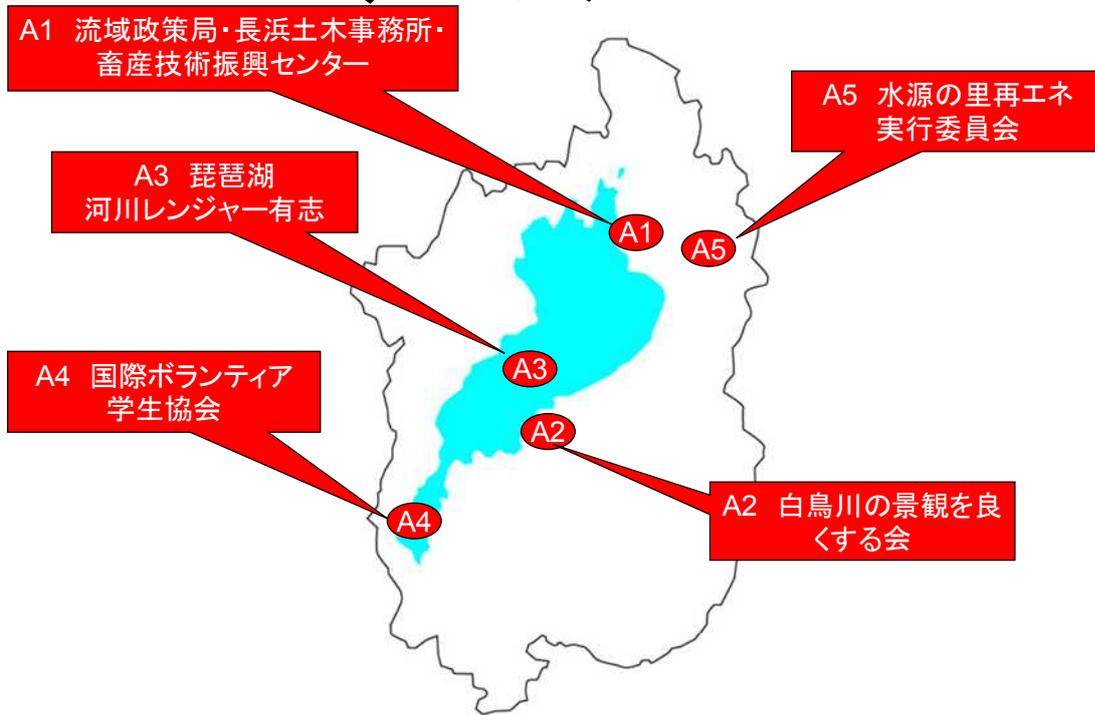
- 全体発表はA-1から順番に行います。

(敬称略)

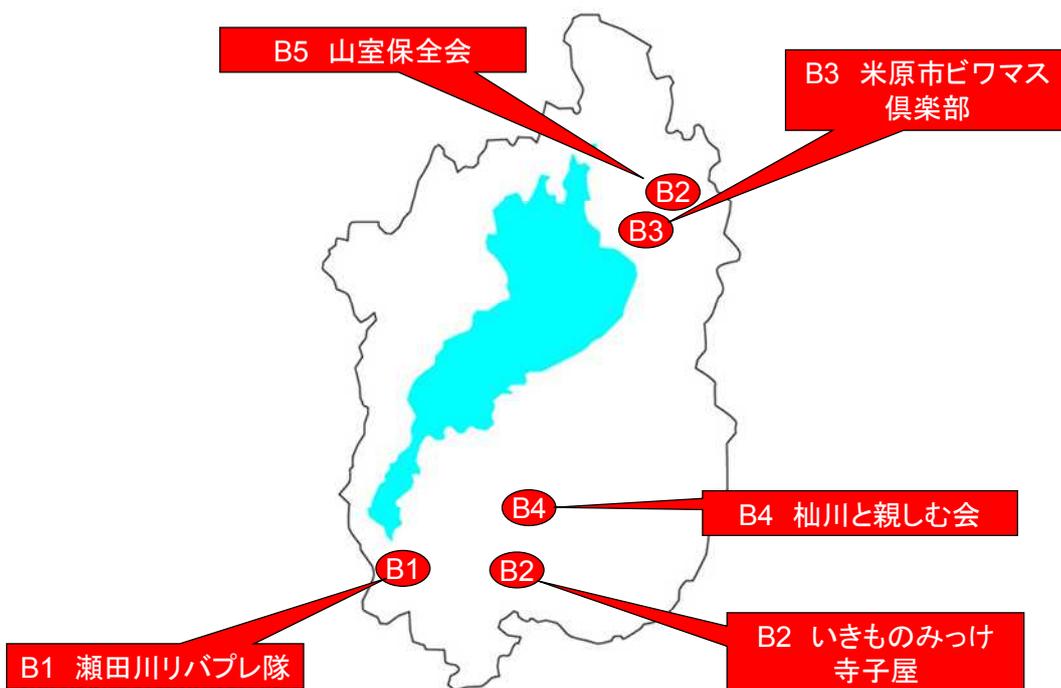
	グループ名	代表者	発表者
テーブルA	A-1 流域政策局・長浜土木事務所・畜産技術振興センター	北村裕二	北村裕二、加藤寿昌・松永孝弘、鶴野佑紀
	A-2 白鳥川の景観を良くする会	吉田栄治	吉田栄治、佐藤成宣、富江修、鈴木正一
	A-3 琵琶湖河川レンジャー有志	根木山 恒平	根木山 恒平、松尾 眞一郎
	A-4 NPO 法人国際ボランティア学生協会	高木駿	高木駿、谷清隆、里村修造、中村俊哉
	A-5 水源の里再エネ実行委員会	法雲俊邑	法雲俊邑、黒田末壽、膽吹邦一、今中力松、嶋野賢一、嶋野美知子
テーブルB	B-1 NPO法人瀬田川リバプレン隊	富岡親憲	富岡親憲、美濃部進、後藤三郎、井上孝夫、富田英夫、伊藤達也、朝田雅夫
	B-2 いきものみつけ寺子屋	竜王真紀	堀ノ内美咲、堀ノ内一恵、植山莉菜、竜王真紀
	B-3 米原市ビワマス倶楽部	中村幸雄	中村幸雄、青木吉史
	B-4 杣川と親しむ会	森嶋克巳	森嶋克巳、藤井忠夫、岡島清、廣猛、土山定信、片山修、熊崎優花、山本由佳、森田和行
	B-5 山室保全会	奥田康登	細溝元信
テーブルC	C-1 草津市立渋川小学校生き物学習実行委員会	片山恵理	中村育夢、松尾一輝、金村凜太郎、佐々木大河、岡田望、二口愛美華
	C-2 長浜土木事務所木之本支所河川砂防課	井口嘉久	井口嘉久、吉川誠一、下山友希
	C-3 滋賀でESDを進める会	藤田アニコ ー	中村利男、中村正、中村征紀、上田洋平、浦幹夫、藤田アニコ
	C-4 守山市 勝部自治会	小嶋宣秀	小林珠美
	C-5 TANAKAMI 子ども環境クラブ	安部尚子	安部尚子、竹村知那巳、竹村侑衣日、中筋奎吾、的場健太、的場陸矢、小杉愛奈
	計		15 団体

6. テーブル別各団体活動位置図

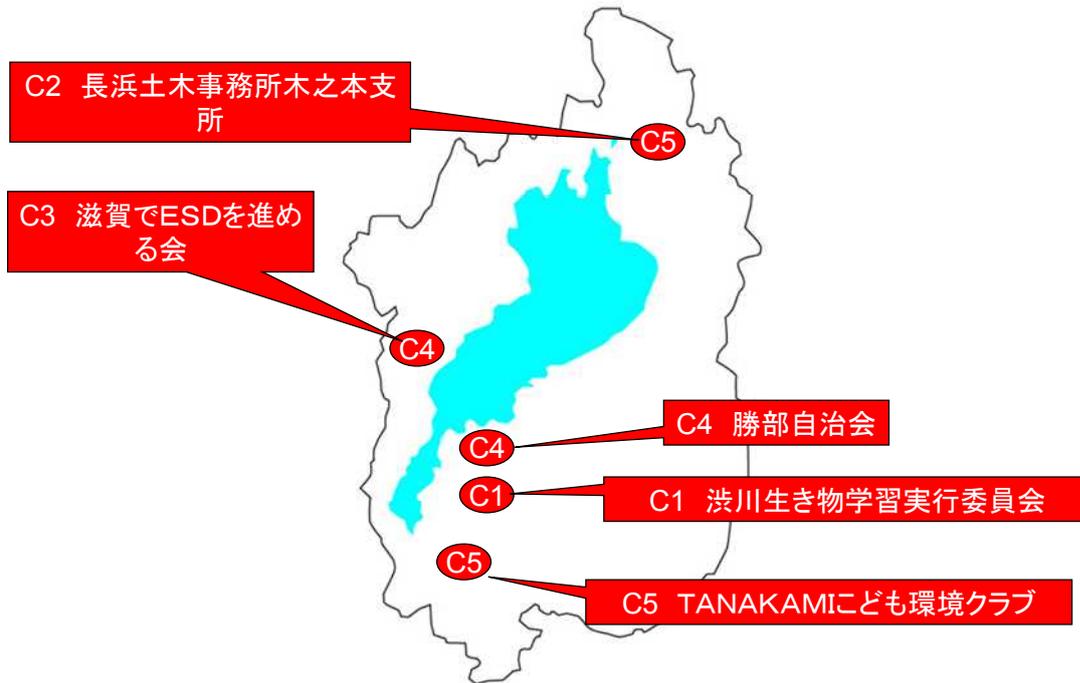
テーブル A



テーブル B



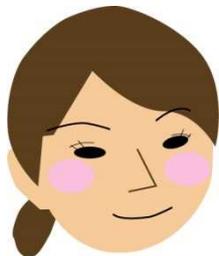
テーブル C



7. テーブル選考 選考員プロフィール（五十音順）

テーブルA

（テーブル・コーディネーター）



（選考員）

山口 美知子（やまぐち みちこ）／滋賀地方自治研究センター 理事

滋賀県長浜市（高月町）生まれ。林業技師として滋賀県入庁後、2012年3月から東近江市職員（現総務部まちづくり協働課）となる。仕事以外では、持続可能な地域モデルを検討する「滋賀地方自治研究センターびわ湖プロジェクト」、びわ湖の森を元気にする活動をしている「kikito」、市民活動を支える中間支援組織「NPO 法人まちづくりネット東近江」等に参加している。



寺田 建吉（てらだ けんきち）／流域政策局副局長

大阪府島本町生まれ、滋賀県守山市育ち。滋賀県庁入庁後、主に下水道関係の事業に従事。

その後、2005年から本格的に河川政策に取り組む。土木技術系職員。

趣味は気楽な山歩きと、星を見ること、しかし最近は寒いので見ていないなあ。^^;



中村 大輔（なかむら だいすけ）／びわ湖エコアイデア倶楽部

滋賀県彦根市生まれ。「アイキッズ」「伯母Q五郎」等、こどもエコクラブの指導者。地域に根差した子どもたちの環境教育のプログラム開発・研究を行っている。また、様々な子ども交流会の企画・運営にも携わる。琵琶湖をはじめラムサール条約登録湿地で活動する子どもたちの交流会では、国内外においてファシリテーターを務めている。



山道 省三（やまみち しょうぞう）／NPO 法人全国水環境交流会 代表理事

1949年11月、長崎県長与町生まれ。子どもの頃、川や魚と慣れ親しむ。

NPO 法人多摩川センター、NPO 法人全国水環境交流会の立ち上げから関わり、現在は両団体の代表理事を兼任。社会参加、NPO の運営等、仕組みづくりに興味を持つ。一昨年から“いい川”づくり研修会で全国巡業中。「川の日」ワークショップ～いい川・いい川づくりワークショップ（1998年～）事務局長、多自然川づくり研究会。

テーブルB

(テーブル・コーディネーター)



(選考員)

金尾 滋史 (かなお しげふみ) / 琵琶湖博物館 学芸員

1980年広島県生まれ。当時学長をしていた日高敏隆先生と琵琶湖の魚に憧れ、滋賀県立大学へ入学。その後同大学院、多賀町立博物館学芸員を経て現職。専門は淡水魚の保全生態学。

学生時代から地域の川づくり、河川・田んぼでの環境教育にいろいろと参画してきた。現在は、地域の子どもたちに囲まれながら、「学」と「芸」を両立させるカリスマ学芸員を目指して日々修行中。



小丸 和恵 (こまる かずえ) / NPO 法人子どもと川とまちのフォーラム 理事

大阪府生まれ、愛媛県と京都府育ち。びわ湖の近くに越してきて3年半が過ぎました。

「『子どもが育つ流域の再生』のためには、世代や立場、分野の壁を越えて人々が信頼関係のもと、つながることが大切」との想いから、ライフワークとして京都で活動を続けて、十数年。これまでのフィールド京都と滋賀をつなぐ役割を担えればと願っている。

3・11後の暮らし方を提案する「あるもん（自然素材・リサイクル・地産地消）」を大切に暮らす「arumonde暮らしを楽しむ会」も主宰し、被災地からの避難ママたちとの活動もサポートしている。現在、湖西に知人の山の木でつくるアルモンデハウスを建築中。



佐藤 祐一 (さとう ゆういち) / 琵琶湖環境科学研究センター 研究員

専門は「なんでも屋」。水質や魚のシミュレーション、環境・社会調査、環境計画づくり、オペレーションズ・リサーチ、ワークショップのファシリテーターなど、とにかく広く関わることで見えてくる「何か」を探して日夜研究活動中。2008年から3年間は、市民参画により琵琶湖流域の将来像を描くプロジェクトの事務局を担当。その結果はマザーレイク21計画の将来像として取り入れられた。



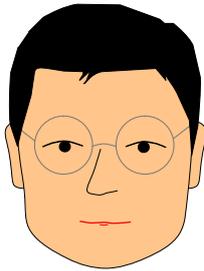
南 隆雄 (みなみ たかお) / NPO 法人近畿水の塾 理事

1964年大阪市生まれ。1987年に衛生工学職として大阪府に入庁後、水質保全、化学物質対策、温暖化対策など主に環境行政を担当。2011年から2年間滋賀県（琵琶湖環境部温暖化対策課）に出向し、同課が所管する関西広域連合広域環境保全局の温暖化対策を担当。

水質保全を担当している時の縁でNPOに参加、また、気ままなボランティアとして、大阪府貝塚市にある自然遊学館の“トンボの池”など自然生態園の管理を手伝ったりしています。

テーブルC

(テーブル・コーディネーター)



(選考員)

福廣 勝介 (ふくひろ しょうすけ) / NPO法人 近畿水の塾 理事長

京都大学農学部林学科卒業後、日本住宅公団（住宅都市整備公団を経て現・(独)都市再生機構）にて主に集合住宅の屋外の計画設計を担当し昨年退職。住民活動では、NPO法人「近畿水の塾」代表理事、「川の会・名張」代表、NPO法人「全国水環境交流会」理事。自然復元系や協働の仕事に関心がある。昭和24年、三重県伊賀（名張市）に生まれ、爾来、数年間を除き名張住まい。関心事は、山・川・人との付き合い。団地故郷作り。脱近代。

青田 朋恵 (あおた ともえ) / 湖北農業農村振興事務所 課長補佐

仕事では、「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」や「魚のゆりかご水田プロジェクト」などに携わり、生物多様性と農村の活性化などについて考えています。最近では、「再生可能エネルギー」について関心をもっています。

農山村が、いつまでも元気で明るくあって欲しいと願い、そのために何が出来るか、自分の無力さを感じつつも、日々悪戦苦闘しています！

プライベートでは、農山村に古くから伝わる郷土料理や食材に魅せられて、常に鼻をきかせ、いいにおいのする方向へは猪突猛進していきます。

小松 直樹 (こまつ なおき) / 琵琶湖政策課 主席参事

滋賀県の化学職員で現在は琵琶湖の保全を担当。「第4回淡海の川づくりフォーラム」に「こなん水環境フォーラム つながろう！人と人、人と水！」で出場し、県民の環境保全活動の大切さを寸劇で演じ、敗者復活を経て準グランプリをいただきました。このフォーラム出場のドキドキ感、そして達成感！身を以て体験しました。

趣味はスキー、マラソン、ワインです。

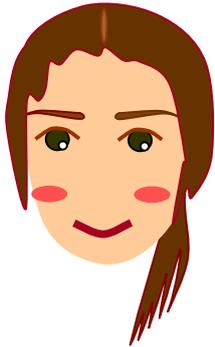
高田 拓朗 (たかだ たくろう) / 水と文化研究会

三重県（伊賀）生まれ。琵琶湖に魅せられて、「琵琶湖のそばで暮らしたい」と、これまでに高島市（新旭・高島）大津市（坂本）草津市と移り住み、そろそろどこかに落ち着く予定。

学生時代から県内各地で水と人びとのかかわりを学ぶ。自身のテーマは、地域の元気を、子どもたちがつないでいく手立て作り。そのため様々な活動に参加させてもらいながら模索中・・・週末はカヤックに乗って琵琶湖からぼーと山や里を見ていたい。



8. 全体討論 選考員



菊池 玲奈（きくち れいな）／結・社会デザイン事務所

NPO スタッフ、大学研究員を経て、5年前に滋賀県に移住。

「人もいきものも幸せな社会」をつくるために、様々な思いを結んで形に変えていきたい、と「結・社会デザイン事務所」を開業。プロジェクトコーディネーターや講演などを中心に活動中。

守山市のホテル「セトレマリーナびわ湖」の企画ディレクターも務める。



さとうひさえ / NPO 法人 アート・プランまぜまぜ理事長

静岡県浜松市生まれ。京都芸術短期大学卒業後、2002年アートと市民をつなぐNPO「アート・プランまぜまぜ」を設立。現理事長。

2005年からは桂川流域ネットワークとともに桂川の流域連携を目的にした「天若湖アートプロジェクト／あかりがつなぐ記憶」を毎年開催。日吉ダムに沈んだ村のあかりをダム湖に灯す巨大アートは地域の風物詩として定着しつつある。

これからも、アートの力で地域を再発見する試みに挑戦していきたいと思っています。



田中 秀子（たなか ひでこ）／筑後川水問題研究会

福岡県生まれ、原田正純先生（水俣病）との出会いや広松伝さん達との筑水研活動（1978年～）、から不条理には楯突きつつ、命にとって本当に大切なものを学ぶ。

莫大な予算をつぎ込みながらも増大する災害に対し、干満差6mの有明海・佐賀平野の伝統的治水技術（減災の知恵）で上手にあきらめる（溢れさせる）流域治水を発信中。

国交省を昨年退職し、「心を耕す鍬」となるよう録音図書の制作を始めました。

9. 総合コーディネーター・コメンテーター&実行委員会

(総合コーディネーター)



中谷 恵剛 (なかたに けいごう) / NPO法人瀬田川リハブレ隊

瀬田の生まれ。川が好き。味噌汁といえばシジミ、モロコの素焼き+酢味噌またはショウガ醤油、ギギの蒲焼き、鮎の塩焼き、フナズシなどなど食いしん坊なことも、水辺の環境を守る第1歩かなんてことを思いつつ、水を知るには上流からと言うことで源流付近(源流までは体力的に厳しい)の探訪などをしております。

(コメンテーター)



片寄 俊秀 (かたよせ としひで) / まちづくり道場 道場主

水辺と下町を同時に再生することこそが、人類の明日に<ほのかな希望>をもたらすと信じ行動する「川じじ」。いい川・いい川づくりワークショップ運営委員。まちづくり道場を主宰するが門人ゼロ。技術士・工学博士・一級建築士。著書『ブワナトシの歌』『スケッチ全国町並み見学』『千里ニュータウンの研究』『まちづくり道場へようこそ』『いい川・いい川づくり最前線(共著)』『いいまちづくりが防災の基本』『日本の石橋・世界の石橋スケッチ集』『まちを歩く・まちを描く』など。食のまちづくり研究の傍らアコーディオン教室に入門し初歩練習中。

(実行委員会)



北井 香 (きたい かおり) / NPO 法人木野環境 理事

奈良県山辺郡山添村生まれ。興味があるのは田んぼ、農村の文化、そこで生きる人、日々重ねられた生活。子ども流域文化研究所での過去の水害聞き取り調査に従事し、現在はNPO 法人木野環境 理事。

滋賀の農山村の情報発信・地域づくりの業務に関わり、県内各地へ赴く。地域の良さを前向きに活かして、活動・発信・取組んでいる人たちを盛り立て、応援したい。現職は滋賀県立大学 特定プロジェクト研究員。2009年に流域治水検討委員会(住民会議)を母体とした淡海の川づくりフォーラム実行委員会を立ち上げ、現在、実行委員長。

(流域治水検討委員会(住民会議) 実行委員会)



大橋さん



杉本さん



松尾さん



中井さん



柴田さん



石津さん



黒黒さん



成宮さん



中村さん



多々納さん

10. 参加団体 活動概要

A-1 流域政策局・長浜土木事務所・畜産技術振興センター

活動のキーワード

- ①ヒツジの放牧 ②川への親しみ ③河川環境保全

発表内容

- ・河川敷にてヒツジの放牧を行い、「①河川敷に繁茂している草をヒツジに食べてもらうことによる除草効果で近づきやすい川へ、②ヒツジをきっかけに、ヒツジとふれあいながら、川や水辺と親しむ場づくり・地域づくり、特に子育て親子を川へ」を主な目的として実施しています。
- ・出水期を終えた10月下旬から11月上旬の2週間程度、長浜新川の河川敷に鋼柵（約100m²）を設置し、その中でヒツジ5頭を放牧しています。平成22年度から取り組みをはじめ、今年度で5年目になります。
- ・運営は滋賀県（流域政策局、長浜土木事務所、畜産技術振興センター）と長浜市で行い、期間中のエサやり・水やりなどヒツジのお世話を近くの公民館やこども園で行っています。
- ・地域にも好評であり、良好な河川環境保全を目指して継続して実施していきたいと考えています。

活動中の川や水辺の名称

一級河川 長浜新川（淀川水系）

活動内容

ヒツジの放牧による河川敷の利活用



よいとこ探しキーワード メモ！

A-2 白鳥川の景観を良くする会

活動のキーワード

- ①景観向上 とメンバーの3づくり ②時代を繋ぐ ③変革の節目

発表内容

◆白鳥川流域の環境整備活動で地域の「景観向上」に貢献。

(1) 活動エリア5kmの場所に於ける除草作業、ごみ拾い等、年間24回の定例活動で環境美化。

(2) 2006年発足以来、2014年11月末まで8年9ヶ月間で201回活動(参加者6066名、除草距離116,990m、ごみ回収14,295kg)。

11月5日の定例活動で200回を迎え市役所関係部署の責任者から作業前にお祝辞を頂きました。

(3) 川のゴミ回収: ゴミネットを設置して琵琶湖へ流入するゴミを積極的に回収する。

(4) 活動を通し、メンバーの3づくり(健康づくり、生きがいつくり、仲間づくり)に寄与。

◆次世代に思いをつなぐ…市民に親しまれる「憩いの場づくり」で、この自然景観を後世に残したい。

(1) 小学校5年生の環境・体験学習の支援、「川に入って生き物調査」他…幼児頃の良き体験づくり。

(2) 子供と連携の「桜ぼんぼり」づくりや市民提供の「鯉のぼりの川渡し」等、良き思い出づくりに貢献。

◆2015年度で創設10周年を迎え、活動の変革を考える節目としたい。

(1) 助成金だけに頼らない、活動を通じた事業化など自立化を検討していく。

(2) 高齢化に伴う負荷軽減策や若い世代への入会促進など、継続的な活動で次代に繋げたい。

活動中の川や水辺の名称

- ①白鳥川(JR線~びわ湖河口付近)、②藤間川(医療センター~白鳥川合流点)

活動内容

白鳥川流域の環境整備活動と市民の憩いの場づくり(桜並木づくり、体験学習場づくり、健康づくり)

よいところ探しキーワード メモ!



A-3 琵琶湖河川レンジャー

活動のキーワード

- ①住民と住民、住民と行政の連携・協働のつなぎ役（コーディネーター）
- ②住民の川への思いや知恵 の聞き取り
- ③住民の川に関心を持てるような取り組み

発表内容

「琵琶湖河川レンジャー」は、琵琶湖及びその周辺において、住民のみなさんの川に関する思いや知恵などを聞き取ったり、みなさんが川に関心を持てるような取り組みをするなど、「住民と住民」、「住民と行政」をつなぐ連携・協働のコーディネーターです。現在、4人の琵琶湖河川レンジャーが、さまざまな活動を展開しています。今回は、河川レンジャーの活動内容を短くまとめてご紹介するとともに、ユニークな活動をしている琵琶湖河川レンジャーへの応募のお勧めを呼びかけます。

活動中の川や水辺の名称

琵琶湖とその周辺河川

活動内容

住民と住民ならびに住民と行政の連携・協働のコーディネーター（つなぎ役）として活動

よいとこ探しキーワード メモ！



活動のキーワード

①琵琶湖環境保全 ②外来水草除去 ③オオバナミズキンバイ

発表内容

琵琶湖では平成26年6月に環境省より特定外来生物に指定された外来水草オオバナミズキンバイが急激に繁殖し、魚の産卵場所が減る、船が通れなくなるなど湖の生態系に悪影響を与え、漁業関係者も悩まされています。IVUSAは平成25年4月より守山市を中心に定期的に活動を行ってきました。しかし南湖全域に拡散していることをうけ、平成26年9月15日から17日にかけて学生約600人での大津市、草津市、守山市全域での琵琶湖オオバナミズキンバイ除去大作戦を行いました。行政、環境団体、漁協、企業などと幅広い地域での繋がりを作りながら取り組み、約6000㎡、120トンのオオバナミズキンバイを除去することができました。

活動中の川や水辺の名称

琵琶湖南湖全域、瀬田川

活動内容

特定外来生物オオバナミズキンバイの除去および広報活動



よいとこ探しキーワード メモ！

A-5 水源の里再エネ実行委員会

活動のキーワード

①地域の自然エネルギー ②暮らし ③自立

発表内容

淀川水系の最源流のひとつ、姉川上流域は縄文時代から人が住み、川の恵みとともに豊かな暮らしが成り立っていた地域。びわ湖から魚が遡上し、森と湖は一つにつながって生き物の共生の場であった。しかし、発電所ができ、ダムができ、道路ができ、魚たちの遡上はなくなり、人は出ていくばかりになった。残ったのは高齢化率50%を超える「水源の里」。この地域を100年後も楽しく暮らせる「水源の里」にしていく起死回生策は「エネルギーの自立」。豊かにある水と森の資源を住民が自分たち自身でエネルギー化し、経済を地域内循環させる。水と食とエネルギーの自給、自立。川を遡上する鮎のように若者が姉川沿いに遡上する。エネルギーの逆流、価値の逆流を起こす。過疎こそ21世紀の最先端地になる。

活動中の川や水辺の名称

姉川・桶水・足俣川・板名古川

活動内容

小水力発電・森林保全・耕作放棄地の復活

よいとこ探しキーワード メモ！



B-1 NPO法人瀬田川リバブレ隊

発表内容

- ◆高橋川河川清掃活動まとめ（毎月 25 日に実施）エコフォスター制度の登録
 - ・・・9月に日本生命とのコラボ紹介、昨年に引き続き河川清掃と植物観察会実施
- ◆コムラサキシキブ周辺の維持管理活動まとめ（毎月 10 日に実施）
 - ・・・セブンイレブンより苗木の提供を受け受け付ける。コムラサキシキブの実、清掃風景等紹介
 - 瀬田川バイパス高架下周辺での取り組み
 - 10年近い取り組みにより行政との繋がりが出来てきました。
- ◆両河川共、改修されたゴミは市コールセンターへ連絡する事で即日処分して貰えることが活動が長続きしている基本です。
- ◆高橋川は浚渫対策として実施され清掃上大変危険な個所が多くありますが、要望事項を県の土木事務所河川砂防課に提出しています。100%とはなりません少しずつ実現して貰えているのがうれしいことです。
- ◆他にも今年4月に河川協力団体に指定を受け滋賀県では第1号となりました。

活動中の川や水辺の名称

高橋川および瀬田川バイパス高架下周辺

活動内容

高橋川および瀬田川バイパス高架下周辺の維持管理活動

よいとこ探しキーワード メモ！



B-2 いきものみっけ寺子屋

活動のキーワード

①いきもの観察 ②命の循環 ③流域のつながり

発表内容

琵琶湖を取り巻く山と里は、きれいな水とたくさんの生き物の命を育む大切なところです。

「安心・安全・健康・環境」などの付加価値を付け、豊かな山と里の風景をいつまでものこしていきたい。

そんな思いでいきものみっけファーム滋賀推進協議会があります。

安心・安全な農作物作りは、農家の方たちがしてくれます。

私たちは「いきものみっけ寺子屋」と名をつけた環境学習部門です。

今年は、本格的にスタートした年、5月の田植えから11月まで毎月、生き物観察と農作業体験、川遊びなどをしてきました。夏には、琵琶湖にも行き、上流の川の保全の大切さを改めて感じました。

そして、「生き物の中にいる私たち」「生き物に生かされている私たち」を勉強中です。

活動中の川や水辺の名称

野洲川

活動内容

生き物観察、農作業体験、川遊び

よいとこ探しキーワード メモ！



B-3 米原市ビワマス倶楽部

活動のキーワード

①知る ②守る ③伝える

発表内容

私たち米原市ビワマス倶楽部は、市が進める「米原市天野川ビワマス遡上プロジェクト」と連携して、天野川にビワマスが遡上する環境を取戻すための取組を行っています。

これまでに、多くの方との関わりの中で、ビワマスや天野川についての学習会、天野川への鉄製魚道の設置、ビワマス紙芝居の作成、ビワマス料理店の出店（イベント等）を行ってきました。また、それと同時進行で、「ビワマスを活かしたまちづくり」について、メンバー皆で考え、意見交換を重ね、「米原市ビワマスまちづくりプラン」を完成させました。このような私たちの活動内容について、発表したいと思います。

活動中の川や水辺の名称

一級河川 天野川（淀川水系）

活動内容

「天野川カムバックビワサーモン」を合言葉にした取組



よいとこ探しキーワード メモ！

B-4 杣川と親しむ会

活動のキーワード

①遊び（杣川源流を訪ねて） ②学び（びわ湖や川の学習） ③親しむ（環境の再生）

発表内容

「杣川と親しむ会」では、杣川の流域住民はもとより、杣川を愛する人々の共通財産と考え治水、利水はもとより水環境、周辺環境との調和を図りながら、今後杣川をどのように守り育てていくか、杣川と遊び、学び、親しむ事を活動の目的としています。

主な活動は、杣川河川敷内に雑木が繁茂し、川の流下能力を妨げるだけでなくビニールなどが引っかけ美観を損ねていることから、3年前から地元の県立甲南高等学校の生徒さんと共に雑木を伐採する活動を行っています。伐採した木は甲南高等学校の協力をいただきチップとして粉碎し、果樹園の堆肥として再利用をしています。又、毎年5月頃に杣川の源流の油日岳に登り、自然の草木を楽しみながら美しい源流の水を確認しています。更に川の環境を守るための活動として、堰堤の草刈り活動や不法投棄ゴミの処理、空き缶拾いなども行っています。

活動中の川や水辺の名称

一級河川 杣川（野洲川の支流）

活動内容

河川敷内の立木（雑木）の伐採とその有効利用

よいとこ探しキーワード メモ！



B-5 山室保全会

活動のキーワード

①生態系保全 ②小学校との連携 ③住民協働（世代をつなぐ農村まるごと保全）

発表内容

米原市旧山東町に位置する山室湿原は、伊吹山の程近くで山林に囲まれ、規模は小さいですが原始の姿を今に残した極めて自然度の高い湿原であり、サギソウやハッチョウトンボの棲息地としても知られています。

生活スタイルの変化により山林への関心が薄れ、湿原の環境も荒廃していくなか、古代からの大切な宝物をいつまでも残していきたいとの思いから山室自治会が中心となって平成24年度に保全会を設立しました。

組織の活動としては、地域の農地保全に関する取り組み（草刈など）のほか、山室湿原の管理や観測用の木製歩道をみんなで整備するほか、地元の小学校や学区の自治会と連携して観察会など学びの場としても活用し、子どもの頃から地域愛や自然への興味と関心を高めてもらうための取り組みなどを行っています。

活動中の川や水辺の名称

山室湿原

活動内容

山室湿原の保全・観察のための木製歩道の整備、地元の小学校の皆さんと「観察会」の実施 ほか

よいとこ探しキーワード メモ！



活動のキーワード

- ①環境学習 ②生物多様性 ③手作り紙芝居

発表内容

渋川小学校では、全校児童が地域の生き物さがしを行っている。その学習の成果として、「いきものがたり紙芝居」という身近な生き物を主人公にした紙芝居を制作した。子どもたちが制作した全99作品の紙芝居を保護者や地域の人々に披露し、みんなで身近な環境について考える機会としている。

活動中の川や水辺の名称

伊佐々川・葉山川

活動内容

手作り紙芝居でふるさとの自然のすばらしさを伝えよう。



よいところ探しキーワード メモ！

活動のキーワード

- ①オオサンショウウオ ② 生き物にやさしい砂防堰堤 ③ 谷川づくり

発表内容

長浜市木之本町古橋地先を流れる大谷川では、豪雨時の崩壊や土石 流の危険から下流の人家や小学校などを守るため、平成9年度に砂防堰堤施設を整備する事業に着手しましたが、平成14年に国の特別天然記念物であるオオサンショウウオが本河川に生息していることが分かりました。

そこで、専門家である生物環境アドバイザーの先生方とともに、より環境に配慮した砂防施設計画を立案しました。代表的な取り組みは次の2点です。

①新しい堰堤をつくるのをやめ、既設の堰堤を生き物にやさしいスリット型堰堤に改修する

②堰堤の上流部に新しい谷川を人工的につくり、生き物の生活空間を創造する

わたしたちは、これらの取り組み内容とその結果について発表します。

活動中の川や水辺の名称

砂防河川 大谷川

活動内容

環境に配慮した砂防施設整備



よいとこ探しキーワード メモ！

C-3 滋賀でESDを進める会

活動のキーワード

①南比良ふるさと絵屏風 ②命の水を訪ねて ③エクスカーション（環境学習エコツアー）

発表内容

当会が地元の方々と企画したエクスカーション（環境学習エコツアー）を紹介します。エクスカーションとは、南比良に引き継がれている自然と歴史を歩いて体験し、絵屏風で語られる歴史を織り交ぜて、これから進むべき持続可能なコミュニティ作りを見出す旅です。

「自然と生きる」「共に生きる」この2つの言葉をキーワードに絵屏風の世界より南比良の暮らしを体験し持続可能な発展へのヒントを探る又、歴史軸より見たコミュニティ形成のプロセスを知り、そこからサステナブルな新しいコミュニティを築くための知恵を学ぶツアーを紹介します。

活動中の川や水辺の名称

びわ湖、四ッ子川、古崎川

活動内容

昔の生活や暮らしの知恵を体験でき、持続可能な未来を生み出すプログラムを企画しています。

よいとこ探しキーワード メモ！



C-4 守山市 勝部自治会

活動のキーワード

①人口集中地域の悩み ②田畑が消える？ ③水と緑の勝部を繋ぎたい

発表内容

26年11月現在で、世帯数1902戸 人口4524人となりました。駅前にもかかわらず、水路や河川をいたるところで目にします。でも、「あっ、川がある」と驚く特別な風景ではなく、地域に溶け込み悠然と流れているのです。魚を追いかけ、蝶や青虫を見つけ、おたまじゃくしを捕まえるなど一昔前の田園風景が、今も少し形を変えて存在しています。少子高齢化の問題より、人口増加の嬉しい悲鳴をあげています。自然と触れ合う楽しさや収穫の喜び等 保・幼・小の子どもたちや住民の心を癒してやまない勝部の田畑は、市街地ということで、やがて宅地となる可能性が高いといえます。しかし、今の環境、つまり、この水と緑を、次世代に繋ぎたいと考えています。

活動中の川や水辺の名称

勝部自治会内 たちばな川（楓三道）を含む9河川およびその支流となる水路、かつべほたる北の道（今宿川）、かつべほたる南の道（中水川）

活動内容

親水、維持管理、環境学習、防災等



よいところ探しキーワード メモ！

C-5 TANAKAMI 子ども環境クラブ

活動のキーワード

①湿地や田んぼ ②生き物 ③自然遊び

発表内容

2014年田上地域を中心に川や湖、池などの生き物を調べてきました。

山の湿地や池での調査でたくさんの不思議を発見しました。

○金銀銅のメダカ ○ブラックバスの池 ○雲より高い田上山

○カヤネズミ発見 ○食虫植物

○台風の被害

子どもの視点から見つけた水辺環境を発表します。

活動中の川や水辺の名称

天神川、大戸川

活動内容

生き物調べ 自然体験活動



よいとこ探しキーワード メモ！

Memo

A large, empty rectangular box with rounded corners, intended for writing a memo. The box is outlined in black and occupies most of the page's vertical space.

しが減災プロジェクト にご参加ください。



1. しが減災プロジェクトとは？

身のまわりの自然現象や災害に関する情報を、自由に投稿・閲覧できる「ウェブサイト」。パソコンやスマートフォンからアクセスでき、コンテンツ利用は無料です。

2. どんなことができるの？

“ウェザーリポート”

身の周りで起きている自然現象や災害情報を確認できる。過去のレポートも検索可能。



“減災カード”

誰でも、いつでも、どこでも、情報を投稿。

“マップオプション”

「地先の安全度マップ」を重ねて表示。



“しが減災メール”

過去の災害と同じ気象条件になった時に危険をお知らせ。



“しが減災プロジェクト”の利用、閲覧はこちら（無料）

インターネットサイト

http://weathernews.jp/gensai_shiga/

携帯サイト

<http://wni.jp/?shiga>